

算 数

- ① (1) 15 (2) $\frac{1}{24}$ (3) 12
 ② (1) 12 (2) 15 (3) 5 (4) 80 (5) 6 (6) 49 (7) 7 (8) 5050
 ③ (1) 117 (2) 9.12
 ④ (1) 12 (2) 29
 ⑤ (1) 48 (2) 8
 ⑥ (1) 26 (2) 69 (3) 23
 ⑦ (1) 5.4 (2) 7.2
 ⑧ (1) 40 (2) 50 : 1 (3) 2, 3, 5, 8

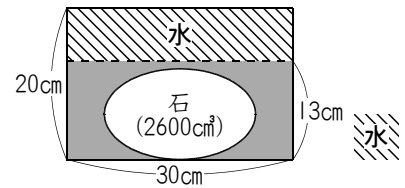
解 説

- ② (1) $(23 + 1) \div (3 - 1) = 12$ (人)

- (2) 太線の三角形は二等辺三角形ですから、
 $90 + 60 = 150$ (度) ……角イ
 $(180 - 150) \div 2 = 15$ (度) ……角ア

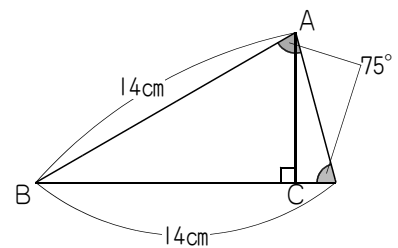
- (3) $\frac{17}{111} = 17 \div 111 = 0.153/153/15\cdots \rightarrow$ 小数第1位から{1, 5, 3}の周期
 $50 \div 3 = 16$ (周期) あまり 2 (個) $\rightarrow$ 小数第50位は5 (周期の2個目)

- (4) 見かけ上、石の体積分 (2600cm^3) の水が増えるので、右の図のしゃ線の部分の体積の和が 2600cm^3 です。したがって、あふれる水は、
 $2600 - 12 \times 30 \times (20 - 13) = 80$ (cm^3)



- (5) グラフより、はじめの7分間はPのみで水を入れ、その後はP, Qの2本で水を入れています。したがって、
 $14 \div 7 = 2$ (L) ……Pが1分間に入れる水
 $(118 - 14) \div (20 - 7) = 8$ (L) ……P, Qが1分間に入れる水の和
 $8 - 2 = 6$ (L) ……Qが1分間に入れる水

- (6) この三角形(二等辺三角形)には、右の図のように内角が{(180 - 75 × 2) = 30度, 60度, 90度}の直角三角形ABCを作ることができます。したがって、
 $14 \div 2 = 7$ (cm) ……AC
 $14 \times 7 \div 2 = 49$ (cm^2) ……求める面積



- (7) 2点, 5点の人の, 「人数の和」と「得点の和」を求めて、つるかめ算をします。
 $40 - (0 + 3 + 14 + 11) = 12$ (人) ……人数の和
 $3.2 \times 40 - (0 \times 0 + 1 \times 3 + 3 \times 14 + 4 \times 11) = 39$ (点) ……得点の和
 $(5 \times 12 - 39) \div (5 - 2) = 7$ (人) ……2点の人数

- (8) N段目には $\{\frac{1}{N}, \frac{3}{N}, \dots, \frac{N\text{番目の奇数}}{N}\}$ が並びますから、N段目の和は次のようになります。

$$\frac{1}{N} + \frac{3}{N} + \dots + \frac{N\text{番目の奇数}}{N} = \frac{N \times N}{N} = N$$

したがって、求める和は{1, 2, …, 100}の和ですから、
 $(1 + 100) \times 100 \div 2 = 5050$

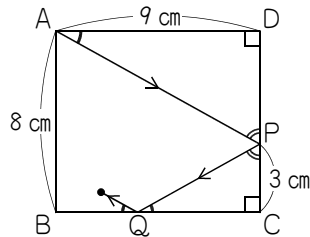
- ⑦ (1) (図1)の三角形QCPと三角形ADPは相似です。したがって、
 $QC : AD = PC : PD = 3 : (8 - 3) = 3 : 5$
 $QC = 9 \times \frac{3}{5} = 5.4(\text{cm})$

- (2) (図2)のように、球がはね返った辺で長方形を折り返してかくと、球が動いたあとは直線ATになります。三角形ABQ²と三角形AETは相似で、相似比は(AB : AE) = 1 : 2ですから、

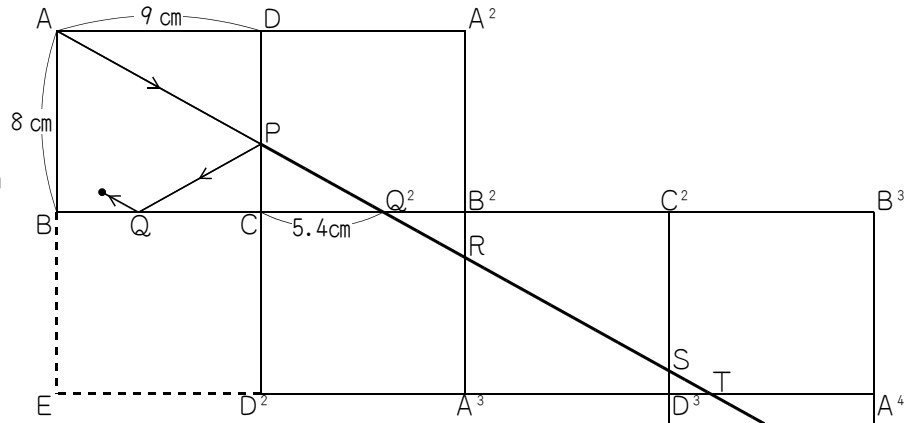
$$(9 + 5.4) \times \frac{2}{1} = 28.8(\text{cm}) \quad \cdots \cdots ET$$

$$9 \times 4 - 28.8 = 7.2(\text{cm}) \quad \cdots \cdots TA^4 \rightarrow TA = 7.2\text{cm}$$

(図1)



(図2)



- ⑧ (1) 容器の底面積 : 水が入る部分の底面積 = $20 : (20 - 1 \times 3) = 20 : 17$
 $34\text{cm} : \text{求める水の深さ} = \frac{1}{20} : \frac{1}{17} = 17 : 20$
 求める水の深さ = $34 \times \frac{20}{17} = 40(\text{cm})$

- (2) 容器の底面積 : 水が入る部分の底面積 = $\frac{1}{34} : \frac{1}{42.5} = 5 : 4$
 容器の底面積 : C 1本の底面積 = $5 : \{(5 - 4) \div 10\} = 50 : 1$

- (3) 容器の底面積を100とすると、A, B, C 1本の底面積はそれぞれ6, 5, 2です。水の深さが50cmになる場合の底面積の関係は、

$$\text{容器の底面積} : \text{水が入る部分の底面積} = \frac{1}{34} : \frac{1}{50} = 25 : 17 \rightarrow \text{この差がおもりの底面積の和}$$

$$\text{おもりの底面積の和} = 100 \times \frac{25 - 17}{25} = 32$$

これより、A, B, Cの本数をa本, b本, c本とすると、次の式で表すことができます。

$$6 \times a + 5 \times b + 2 \times c = 32$$

この式では 32 がすべて2の倍数ですから、「 $5 \times b$ 」も2の倍数です。よって、bは2か4か6と考えられます(これ以上は32をこえます)。このそれぞれであてはまるa, c(0はのぞく)を求めると、

$$b = 2 \text{ の場合} : 6 \times a + 2 \times c = 32 - 5 \times 2 = 22 \rightarrow 3 \times a + 1 \times c = 11$$

$$\rightarrow \{a = 3, c = 2\}$$

$$\{a = 2, c = 5\}$$

$$\{a = 1, c = 8\}$$

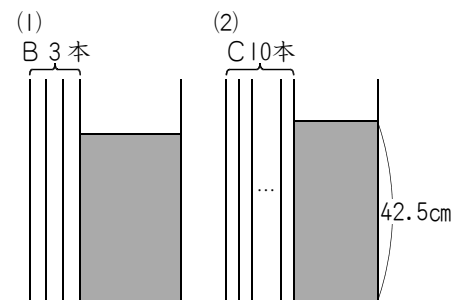
$$b = 4 \text{ の場合} : 6 \times a + 2 \times c = 32 - 5 \times 4 = 12 \rightarrow 3 \times a + 1 \times c = 6$$

$$\rightarrow \{a = 1, c = 3\}$$

$$b = 6 \text{ の場合} : 6 \times a + 2 \times c = 32 - 5 \times 6 = 2 \rightarrow 3 \times a + 1 \times c = 1$$

$$\rightarrow \text{あてはまる} a, c \text{ はない}$$

したがって、Cの本数は{2本, 3本, 5本, 8本}です。



- ① 1 専門 2 対照 3 綿密 4 收拾 5 保証
6 純真 7 映る 8 納める 9 暖かい 10 努める

- ② 問一 1 イ 2 エ 3 ア 問二 1 エ 2 ア 3 ウ
問三 1 ウ 2 ア 3 エ 問四 1 ウ 2 ア 3 エ

- ③ 問一 ウ→ア→イ→エ (4 つくんで) 問二 たとえば 問三 イ
問四 1 エ 2 神話の知 3 静かなたた～ようなもの (くんで)
4 I 豊かな科学の知 II 極めて貧困な精神 III 近代人
問五 ア 問六 エ

問七 自分の無意識の神話産生機能を活用し、神話や昔話の価値を認めることで自分にふさわしいコスモロジーをつくりあげること。

- ④ 問一 1 オ 2 ア 3 ウ 4 イ
問二 a 小言 b 群青 c 口調
問三 ウ 問四 奇妙なロボット・鉄垂鈴のおばけ (くんで不順可)
問五 1 エ 2 イ
問六 1 北斗七星 2 ひしゃくのかたち 3 崩れる 4 ウ
問七 エ 問八 1 ぎじん〔法〕 2 イ・エ (くんで不順可) 問九 イ
問十 少女が洋に握手のかたちに手をさしのべたことと麦わら帽子が似合う小さな顔だろうという想像は当たっているが、小麦色に日焼けしているという想像は外れ、顔色がぬけるほど白かったこと〔に驚いたということ。〕
問十一 ア

解 説

- ③ 出典は、河合隼雄「イメージの心理学」〈青土社〉。

「自分」を環境から切り離し、客体として観察して得られた近代の「自然科学の知」と全体の中にあって自分と全体とのかわりや自分の存在価値について語ることができる「神話の知」とを〈対比〉しながら、近代人が陥った「貧しい生き方、セカセカした生き方」から抜け出す可能性を示す文章です。〈対比〉の関係を強く意識して読み進みましょう。

問一 「AするためにBする。BするためにCする。」——出来事としては、C→B→Aの順になります。3行め、5行め、6行めの「ために (は)」に着目し、順次さかのぼっていきます。5行めの指示語「この」の指示内容に注意。

問二 8行めまでの「自然科学の知」を得る過程を一般論・抽象論として説明するのに対して8～11行めでは「自然科学の知」の一例である「太陽」についての知識を具体例として説明していますから〈例示〉の「たとえば」と推理します。

問三 ——線部直後に「それ (自然科学の知) は、出発の最初から、自分を抜きにして得たものなのだから、当然のことである」と理由の中心的内容が示されています (ア・イの前半OK)。「自分を抜きにして得た」「自然科学の知」なのだから、「自分という存在とのかわりで考えてみる～。なぜ、自分は～。自分は何のために生きているのか～」(16～21行め) など「自分」にかかわる問いには答えられないのだと説明しています (イの後半OK)。

問四 1…③～⑤段落で紹介されているプエブロ・インディアンについての説明を要約・抽象するとどうなるかを読み取ります。たとえそれが「自然科学の知」からすると「幼稚」だったとしても、太陽と自分とのかわりを語ることができます。しかも、「彼らは全世界のため、太陽の息子としてのつとめを果たしていると確信している」(38・39行め) というのです。全世界の中における自分の存在する意味や理由を確信して生きている人々です。2…③段落で紹介されているプエブロ・インディアンの姿は、宗教的であり、神話的であると形容することができます。そして、⑤段落では、「インディアンたちは、彼らの『神話の知』を生きる～」(47・48行め)、「～インディアンたちが彼らの神話の知を～」(52行め)と、「自然科学の知」と対になる言葉で表現しています。3…⑤段落で「インディアンたちは、彼らの『神話の知』を生きることによって、ユングが羨望を禁じ得ない『気品』をもって生きている」(47～49行め)と筆者はまとめています。これがヒント。ユングからの引用は「～私は一人一人のインディアンにみられる、静かなたたずまいと『気品』のようなものがなにもに由来するのかが分かった。」(41～43行め)とあります。4…⑤段落47～49行めでインディアンについて述べた後、「これに対して、近代人は何とせかせかと生きていることか。近代人は豊かな科学の知と、極めて貧困な精神とをもって生きている。」(49～51行め)と続きます。解答文に合わせて書き換えます。

問五 「それ (神話の知)」を、自分をも入れ込んだ世界を、どうイメージするのかという、コスモロジーとして論じるとき～という文脈から、「コスモロジー」は全体の中における自分の存在と全体とのかわりやその意味、あるいは価値

値を語ることに関係があることがわかります。コスモロジーを背景として、「自分は何のために生きているのか」(19行め)、「自分という存在と、太陽とは、どうかかわるか」(24・25行め)というような問いにも答えることができるということです。「コスモロジー」を直接説明・定義していませんが、プエブロ・インディアンの紹介をはじめ、「神話の知」に関連する説明内容から推理します。

問七 「われわれとしては、自分にふさわしいコスモロジーをつくりあげるべく各人が努力する」(90～92行め)ことを提案しています。「どうすることで」——「自分の無意識の神話産生産機能に頼らねばならない。しかし、そのことをするための一助として、～神話や昔話を～その意義を見直してみる～」(93～98行め)と続きます。「非科学的」「非合理的」ということで否定された「神話の知」の復権と気品ある豊かな生き方を提案しています。

④ 出典は、いまえよしもと 今江祥智「ぼんぼん」〈岩波書店〉。

問一 1…直前、電気館に来たのが「その日が初めてだった」ことが、直後「何もかもがめずらしかった」理由となっていますから〈順接〉。2…洋でも知っているようなことを説明していたのが、「思いがけない」ことを言いたしとありますから〈逆説〉。3…プラネタリウムの解説者が新たな解説に入る冒頭部ですから〈転換〉。4…「～洋の手を握った。」「～行ってしまった。」と少女の行動を順追って描写していますから〈添加〉。

問三 文全体の述語「とりまいていた」に対応する主語は「星が」。これ以外の〈主語・述語関係〉「洋が→もどした」を含む部分は、文全体の述語「とりまいていた」を修飾しています。(「予習シリーズ・6年上」p.20～, p.36～)

問四 洋がプラネタリウムを見ている場面に注意して探しましょう。「～タばえのなかに立つ奇妙なロボットに見えたプラネタリウム～」(13・14行め)。「この、鉄垂鈴のおばけみたいな機械のことは～」(48・49行め)とあります。

問五 1…「そんな弟のことを、初めはあきれ顔で見ていた」とあります。「そんな弟」＝「洋には、ここの何もかもがめずらしかった。～ボタンもわけがわからぬまま、とにかくかたっぱしから押してやった」(36～39行め)。このような弟の行動を見て「あきれ顔」ですから、エが正解。2…「気難しい顔になって、そないにみんなさわっとつたら、プラネタリウムを見る時間がのうなるやないか……とせきたてた」(40～43行め)と描写されていますから、イが正解。ウ「傍若無人なふるまい」が×。オ「～洋に怒りを覚えている」は、この場面での感情としては強すぎるので×。

問六 ——線部直前「そんなアホなことが (あるはずがない)」が直接のきっかけです。「いまはひしゃくのかたちをしているこの七つ星 (～) が、いつかはかたちが崩れる」(80～83行め)という解説者の説明を聞いた直後「そんなアホなことが」と続きます。「七つ星」＝「北斗七星」。「こらゼツタイや」(76・77行め)という思い(知識)を否定するような説明です。兄・洋次郎の「ひじをつつた」のは、真偽の程を兄に確かめるための行動です。

問七 兄弟にとって「北極星と北斗七星」は、どのようなものだったのか。解説者の説明を聞いた段階では「そんなアホな」「ほんまかいな」だった二人は、プラネタリウムが映し出す「十万年後の北斗七星」を見せられた後、驚きをおどろかせません。そして「その日、兄弟の頭の中で、“ゼツタイに変わらぬはずのもの”がひとつ、静かに崩れたのだった。」(114～116行め)と続きます。88行めの空欄部分では「まだ～輝いている」とあります。この段階では、「北極星と北斗七星」は二人にとって「絶対に動かず変わらぬもの」として輝いていたのです。

問八 1…「～麦わら帽子が～すわっていた」——人間以外のものの様子や動きを、人間であるかのようにたとえる表現技法を擬人法といいます。2…「傍点」は、その部分を強調したいときや読む人の注意を喚起したいときなどにつけるのが一般的な用法です。擬人法が使われていますから、文字どおりの意味・方法ではないことを示しています。よってイが正解。また、人が席にすわっているように麦わら帽子がシート(席)に置かれていたということからエが正解です。

問九 時は「昭和16年」＝1941年です。1931(昭和6)年9月18日から満州事変、1937(昭和12)年7月7日から日中戦争、そして1941(昭和16)年12月8日からは太平洋戦争という時代であることを忘れずに。麦わら帽子の持ち主の女の子について「想像」をふくらませていた(162～173行め)自分に気づき「気ツツケイ!」の号令でもかけたい気分になつたということです。直立不動の姿勢を要求する号令です。自分自身の気を引きしめようとしたのです。——線部直後、言い訳めいたことを思いながらも「少し照れくさかった」とあります。

問十 ——線部直後「と、洋次郎はそんな少女のようすを見ながら思っていた」と続きます。洋次郎の目に映る少女の姿や言動が洋次郎に「うへっ」と思わせています。ひとつは少女が洋に対して「握手のかたちに手をさしのべていた」ことです。もうひとつは——線部を含む一文の次の文に書かれている「洋次郎の想像は半分当たって半分外れていた」ことです。麦わら帽子が似合う小さな顔という想像は当たっていましたが、小麦いろに日焼けしているという想像は外れ、顔はぬけるほど白かった、とあります。212～220行めから「顔の白さ」が印象に残ったことがわかります。

問十一 「めずらしい動物でも見る」という表現から、弟の意外な一面を目撃した驚きを洋次郎が感じていることが読み取れます。「洋次郎はうらやましさを隠さなかった」(236行め)とありますが、弟を「めずらしい動物でも見る」という——線部中の表現との対応がありません。ウ「親しげに対応する洋」×、エ「平然としている洋」×。

- ① 問1 ロゼット 問2 イ 問3 480 問4 エ 問5 (1) ア (2) イ
 ② 問1 X 受粉 Y 受精 問2 ㊸ オ ㊹ ア 問3 A, B (くんで不順可)
 問4 A, C, E (3つくんで不順可) 問5 (1) B (2) エ・力 (くんで不順可)
 ③ 問1 エ 問2 東京 ア ㊺ イ 問3 X ㊻ Y ㊼ 問4 ウ 問5 ㊽ イ ㊾ 力
 ④ 問1 二酸化炭素 問2 C ㊿ F ㊽ 問3 ア 問4 0.4 問5 X 1.2 Y 3.8
 ⑤ 問1 並列 問2 ウ 問3 ㊿, ㊽, ㊾ (3つくんで不順可) 問4 ㊿ 問5 エ 問6 2
 問7 4

解説

② 花のつくりとはたらき

問2 胚乳^{はいにゅう}は、イネやトウモロコシの種子に見られる、発芽に必要な養分がたくわえられている部分です。花柱はめしべの柱頭と子房^{しぼう}をつなぐ部分、やくはおしべの先端^{せんたん}にある花粉をつくる部分です。

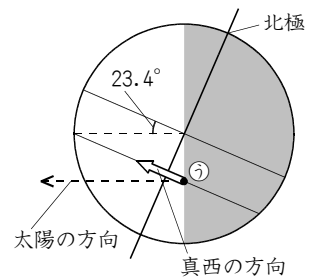
問5 (1) アサガオやイネの他、エンドウも、開花するとき自然に受粉するしくみをもっています。

- (2) 開花前におしべを取りのぞいた(ウ)～(オ)は、開花するとき受粉することはありません。このうち、ふくろをかぶせたままにしておいた(エ)の花には、他のアサガオの花粉が運ばれることもないため、種子はできません。また、胚珠^{はいしゅ}はめしべの一部なので、(カ)のめしべを取りのぞいた花にも、種子はできません。アサガオは下線部③にもあてはまることから、(ウ)の花には、昆虫^{こんちゅう}などによって他のアサガオの花粉が運ばれたと考えられます。

③ 太陽と地球

問4 地球^{ちきゅう}は西から東へ自転していることから、太陽が西から出ることはありません。また、冬至の日、地球の地軸は太陽の方向に対して右図のようにかたむいているため、日の入りのときの太陽の方角は、真西よりも南寄りになります。日の出の方角も同じように考えることができます。

問5 問3・4より、冬至の日の地点③では、太陽は、真東よりも南寄りから出て、天頂^{てんてい}を通り、真西よりも南寄りにしずむことから、日影^{ひかげ}曲線は、日の出・日の入りのときは北側にあり、棒を立てた位置を通る、(イ)のようになります。地点⑤は南極圏内にあることから、この日、太陽は1日中しずみません。太陽が真北にきたときと真南にきたときとで太陽高度をくらべると、真北にきたときの方が高くなることから、日影曲線は、(カ)・(キ)のうち、真南にできた影の方が短い、(カ)のようになります。



④ 水溶液の分類と中和

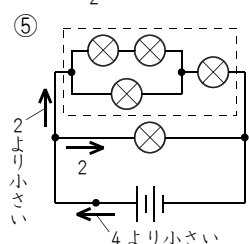
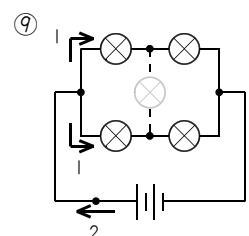
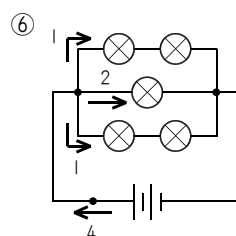
酸性^{さんせい}のA・Dの水溶液のうち、においがあるAの水溶液は③の塩酸です。したがって、Dの水溶液は⑥の炭酸水になります。中性^{ちゅうせい}のFの水溶液は②の食塩水です。アルカリ性^{あんきせい}のB・C・Eの水溶液のうち、においがあるCの水溶液は①のアンモニア水です。B・Eの水溶液のうち、炭酸水と混ぜると白くにごるBの水溶液は④の石灰水です。残ったEの水溶液は⑦の水酸化ナトリウム水溶液になります。

問5 ビーカー③で、混合液は中性になったことから、Aの水溶液(塩酸)とEの水溶液(水酸化ナトリウム水溶液)はA:E=2:3(40:60)の体積比で混ぜ合わせると完全中和することがわかります。得られた3.6gの固体はすべて塩化ナトリウムです。①のビーカーでは、Eの水溶液20cm³がAの水溶液と中和して1.2g($3.6 \times \frac{20}{60}$)の塩化ナトリウムの固体が得られます。残ったAの水溶液からは固体は得られません。④のビーカーでは、Aの水溶液20cm³がEの水溶液30cm³($20 \times \frac{3}{2}$)と中和して1.8g($3.6 \times \frac{30}{60}$)の塩化ナトリウムの固体が得られます。残ったEの水溶液50cm³(80-30)からは2g($0.4 \times \frac{50}{10}$)の水酸化ナトリウムの固体が得られるため、得られる固体の重さは合わせて3.8g(1.8+2)になります。

⑤ 電流と抵抗

問6・7 ⑦のときの回路図も⑤と同じで、問5の(エ)になります。

⑥は(イ)、⑧は(ウ)、⑨は(ア)です。(ウ)は(エ)の乾電池の向きを反対にしたものと考えることができるため、⑦・⑧の2つの回路で、点Rを流れる電流の大きさは⑤と同じになります。⑥・⑨のとき、回路を流れる電流の大きさは右上の図のようになります。⑤のとき、右下の図の⑤の部分の抵抗は豆電球1つのときよりも大きくなるので、この部分を流れる電流の大きさは2よりも小さくなります。したがって、点Rを流れる電流が最も大きくなるのは⑥のときで、その大きさは4だとわかります。



- ① 問1 I GHQ 2 A 財閥 B 独占禁止法 (くんで) 3 E
問2 C 資本 対立 冷戦 (くんで) 問3 中華人民共和国 問4 I 1950 2 I
問5 I 吉田茂 2 A・E (くんで不順可) 問6 ⑥ 共同宣言 ⑦ 共同声明 (くんで)
- ② 問1 A I B E (くんで) 問2 C 国民投票 D 本会議 E 立憲 F 最高法規
問3 I 帝国議会 2 1946・11・3 (3つくんで) 問4 知る権利 問5 E
問6 組織の名 自衛隊 記号 ウ (くんで) 問7 国権 問8 ことば 象徴 記号 A (くんで)
問9 I ④ 不信任 ⑤ 10 (くんで) 2 特別国会 (特別会)
問10 I 両院協議会 2 A 3 弾劾 問11 248
問12 I ウ・カ (くんで不順可) 2 ② 差別 ③ 法 (くんで) 3 ウ
問13 I 間接民主制 2 I 3 E 4 ことば 普通 記号 ウ (くんで)
- ③ 問1 A 問2 I 有機水銀 2 環境 問3 阪神・淡路大震災 (阪神大震災) 問4 E
問5 所得倍増計画 (国民所得倍増計画) 問6 東海道 問7 I I 2 変動相場制
問8 I バブル経済 (バブル景気) 2 I・ウ (くんで不順可) 問9 ④ 55 A ウ (くんで)
問10 A 問11 石油危機 (第一次石油危機) 問12 ④・⑤・⑥・⑦・⑧ (5つくんで不順可)

解説

- ① 問3 1949年に中華人民共和国は社会主義国家として成立し、ソ連を中心とした社会主義陣営に加わりました。
問4 2 II アメリカ軍から大量の軍需品などの注文が相次いだため、朝鮮戦争の間は特需景気とよばれる好景気となりました。
- 問5 2 サンフランシスコ平和条約は、1951年に結ばれました。I 沖縄が日本に復帰したのは1972年です。
ウ 日本が国際連合に加盟した年は1956年です。ソ連と国交を回復したことによって実現しました。
- ② 問5 A 戦争や、武力による威嚇、武力の行使を、国際紛争を解決する手段としては放棄すると定められています。国際紛争を解決する手段は放棄していません。I 国の交戦権は認められていません。ウ 日本国憲法第9条は、第2項に「前項 (第1項) の目的を達するため」とあります。戦争の放棄は第1項に、戦力の不保持は第2項に示されています。
- 問6 ウ 自衛隊の最高指揮監督権は内閣総理大臣にあります。軍人でない人が軍隊を指揮することを、文民統制といえます。
- 問8 A 最高裁判所長官を指名するのは内閣です。最高裁判所長官の任命は、天皇の国事行為にふくまれます。
- 問10 2 予算の先議権と内閣不信任決議は、衆議院にのみあります。
- 問12 I A 裁判を受ける権利などをふくむ請求権は、基本的人権を守るための権利の一つです。I 自分のつきたい職業を選ぶ権利は経済活動の自由にふくまれます。E デモ行進をする権利は、集会・結社・表現の自由にふくまれます。O プライバシーの権利は、世の中の変化によって主張されるようになった新しい人権です。日本国憲法の条文には直接定められていません。
- 問13 2 I 衆議院議員の被選挙権は満25歳以上、参議院議員は満30歳以上です。E 参議院は、3年ごとに議員定数の半数が改選されます。1回の選挙では議員定数の半数が選出されます。
- 3 A 衆議院議員の選挙に取り入れられています。I 選挙区ごとに当選者が決まります。ウ 死票とは、落選者に投票された票のことです。1つの選挙区から2人以上が当選する大選挙区制に対し、小選挙区制では1人しか当選しないため、死票が多くなりやすいといえます。E 最も多く得票した候補者1人しか当選しないため、勢力の大きい政党に有利な制度です。
- 4 1925年に定められた普通選挙法によって、選挙権は満25歳以上のすべての男子にあたえられていました。1945年の選挙法の改正によって、満20歳以上の男女に変わりました。性別と年齢が変更されたとわかります。
- ③ 問1 三種の神器は白黒テレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機、3Cはカラーテレビ・乗用車・クーラーです。両方にはまるのはテレビです。
- 問4 I の小泉純一郎は郵政民営化を、ウの中曽根康弘は国鉄民営化を行いました。
- 問8 バブル景気が崩壊した結果、企業は能力の高い人には多く賃金を支払う一方で、非正規雇用を増やして人件費を減らすようになりました。従来の終身雇用制や、年功序列の給与制度を維持するのも難しくなっています。
- 問9 与党が自由民主党、最大の野党が日本社会党という政治の体制は、1955年に自由民主党が結成されて成立したことから、55年体制といわれます。
- 問10 石炭に代わり、安価で扱いやすい石油が使われるようになりました。A 鉄鋼の生産には、鉄鉱石・石炭 (コークス)・石灰石が用いられます。I 石炭は固体です。液体で運ばれる地下資源には、天然ガスや石油があてはまります。